

ガラスの靴

森野 水琴

着飾った乙女が宮殿に王子を訪ねてきた。

馬車から降りて、うやうやしく乙女は王子に挨拶する。

かねてより城下の乙女に逢いたいと願っていた王子は歓迎の宴を催した。

深夜十二時が近づき、乙女が焦り始めた。

門限に遅れるからと言い、乙女は走りながら宮殿を後にする。

慌てていたので、片方の靴が脱げても拾いに戻らず走っていく。

王子は走り去る乙女のうしろ姿を追いつながら、残されたガラスの靴を拾った。
やがて十二時になった。

ガラスの靴は、みすぼらしい靴になった。

どうやら魔法が解けたらしい。